



平成26年度事業概要

健康づくりモデル事業などを展開

② 地球温暖化対策の活動支援

地域活動支援センター・脱温暖化センター
ひろしまは、環保協の公衆事業部門として、公衆衛生推進協議会（以下、公衛協）を主体とした「ミヨニティにおける健康づくり、環境づくりの支援」を行つてゐる。『田滑な公衆衛生活動の実現に向けたバランスの良い事務局運営体制の構築』『全県共通事業と個別支援を通じた公衆衛生活動の拡大・充実』を第一期中期経営計画（平成25～27年度）の重点方針に掲げ、平成26年度事業を以下の三つの視点で推進する。

地球温暖化防止活動推進センター運営委員会などの機能強化を通じ、地域活動支援センターの組織的な機能強化を図る。特に、代表者会議では専門部会の構成員を拡大させ、より充実した意見交換の場とする。また、ホームページを充実して情報公開と共有を促進し、協会部門間および外部団体との連携強化を図る。

例年、全県の公衆衛生推進協議会関係者が一堂に会し、情報交換などを

また、今年度で6年目となる、公衛協の代名詞的な事業になつている「環境啓発ボスター・標語」「インクール」「環境と健康」「マイティ活動助成事業」は、申請書の提出締め切りが5月末となつていて、ポスター・標語「インクール」では、「事後フオロー活動助成」を継続して行うので、公衛協活動の財源として活用いただきたい。

(地域活動支援センター)

③ 地域活動支援センターの機能強化

IPCC 地球温暖化の 最新知見

「本当に地球温暖化は進んでいるの?寒冷化しているんじゃないの?」どちらが本当なのか混乱している方も多いと思います。世界の科学者は地球温暖化をどう見て いるのか?統一した意見はあるのか?などについて、最新 の報告書をもとに6回シリーズで紹介します。

最近、世界のいたるところで、気候異変に関します。このリピンでは猛暑によって大旱魃、オーストラ

IPCC第5次評価報告書発行

科学者の意見は?

効果ガス排出削減など地球温暖化を加速させない『綱

を担当し、経済産業省(下図参照)。昭31日に第1作業書が発行されました。学者の大半で一致しました。まとめられています。報告書の内容をこれからのお付き



(自然科学の根拠) (影響、適応、脆弱性) (緩和策)
IPCC WG1 国内支援事務局ホームページより
<http://ipccwg1.restec.or.jp/ipcc/index3.html>
(広島 地方気象台 銀列子起謹 署名堅行)



一般財団法人 ~みんなの生命（いのち）をまもりたい~ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号（広島県公衆衛生会館）

TEL:082(293)1511 [大代表]
FAX:082(293)1520

九月 | 2018

検索



平成26年度の環境健康募金PRポスター

4月7日は環境・健康基金 健康感謝の日

地区衛生組織活動資金 募集事業は、昭和35年に世界保健デーの45回目を迎えます。

募金は公衛協の自主財源 地域ぐるみ活動で地域還元

月7日を「健康感謝の日」と定めて以来、「私たちの地域は私たちの手で」という思想のもと、健康増進をはかる地域ぐるみの活動を行うために、毎年4月7日に募金活動を行い、今年で55回目を迎えます。

公衛協の活動を、よりわかりやすく理解していただきため、昨年度から「健康感謝募金」という通称を「環境健康募金」に変更しました。この募金は募金委員会に集約された後、各市町公衛協環保協事務費に配分されます。

公衛協に配分された募金は、町内清掃、ごみの不法投棄対策、資源ごみ回収、水辺教室、脱温暖化普及啓発活動、などの環境づくり事業や、教育、ウォーキング、献血事業の促進など、健康づくり事業に係る財源などに充てられます。募金の用途は公衛協によって異なりますので、詳しくは各市町の公衛協事務局へお問い合わせください。

環境保協配分金は、公衆衛生推進手帖や全県共通事業で活用する「広島発瀬戸内海美化大作戦」のアドプロト看板やのぼり、「万人のエコチェック事業」や「万人の食チエック事業」の提携グッズの作製、および基礎研修など公衆衛生推進委員の養成に係る事務費配分金は、募金事業を展開するためのPR用ポスターやチラシ、募金回収袋の作成などに充てられます。



みなさんは、「瀬戸内海環境保全協会」をご存知でしょうか? この法人は、民間団体と地方公共団体などが互いに協力して幅広い活動を開いています。昭和51年に設立され、以来、環境保全に関するさまざまな課題に対する調査研究や生物多様性など新たな課題に対する調査研究、瀬戸内海の栄養塩類、瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築と教材提供を行っており、これまでの活動や事業の助成を行っている「KJB瀬戸内基金」(出資: フィリップモリスジャパン(株))の管理運営等を行っています。



公益社団法人瀬戸内海環境保全協会の活動

なまからお預かりし、また净財は、公衆衛生活動を通して地域に還元され、「ミユーティ」の「環境」と「健康」を守る活動に活かされています。募金の主旨をご理解いただき、引き続き協力ををお願いします。



さまざまな事業が展開される

環保協 平成26年度計画

各センターで新規事業を展開

重点に危機管理強化・業務改善推進

3月15日に開催された第3回評議員会(臨時)において、26年度事業計画および当初予算が承認された。事業計画と予算は、経営ビジョンに掲げた10年後のるべき姿を具現化するために、第1次中期経営計画で示した戦略や数値計画に基づいて策定した。

26年度は、重点取り組みとして「危機管理の強化」、「職員満足の醸成」、「業務改善の推進」を掲げ、役職員が団結して推進する。

新年度のスタートにあたり、各センターで新たに取り組む事業のポイントを紹介する。

経営管理センターは、評議員会や理事会の開催、人事・労務・施設管理・情報管理・財務などの会務を適正に行うほか、社会貢献活動やPR活動に取り組む。また、災害発生時の態勢見直しや情報管理体制の強化、職員満足をめざした「第3次世代育成支援行動計画」の策定や「転進支援制度」の運用を開始する。さらに、業務改善を促進するため、優良な取り組みに報奨金を支給するなどした「業務改善制度」も開始する。

地域活動支援センターは、協会の公益部門として、公衛協や地球温暖化対策地域協議会への支援を行う。代表者

会議や運営委員会を通じてニーズを把握するほか、人材育成のための研修会を定期的に開催する。また、活動メニューの開発・提案にも取り組み、中でも健康づくりに特化したメニューを具体化する。

健康科学センターは、人間ドックや各種健診などを通じて、県民の健康づくりを総合的に支援する。新たに、漢方外来やピロリ菌外来などを設けるほか、魅力のある検査オプションのメニューを充実させる。

環境生活センターは、品質管理を徹底し、ニーズに応じた検査や分析、調査などを実施する。中でも食品検査事業の拡大をめざして、広島県の認証取得を含めた食品製造総合衛生管理の提案、新規項目の分析方法を検討する。また、主に食品製造現場で活用ができる環境浄化製品の販売に取り組む。



第3回評議員会

豊かで美しい「里海」へ 広域的な情報集積・発信



瀬戸内海の環境保全業務担当者向けの知識研修(上)、(下) 濱戸内海の各種情報を集録した総合誌「瀬戸内海」



種情報データの収集発信また、瀬戸内海地域における環境美化保全活動に取り組む市民団体の制度を利用した公衛協も多いと思います。

瀬戸内海は、今までの取り組みの成果もあつて、水質は改善されつつあります。しかし、栄養塩の不足や海ごみの問題など、新たな課題が

あります。そこで、水質や自然景観の保護に取り組みを継続する取り組みを継続してまいります。

会員である当協会も、全県共通重点事業である「広島発瀬戸内海美化大作戦」の広域展開を図ります。そのなかで、水質や自然景観の保護が、瀬戸内海のさまざまな場所での美化保全活動などを支援し、情報集積と発信に努め、瀬戸内海の恵みを後世に継承する取り組みを継続してまいります。

地区衛生組織活動資金募集(環境・健康募金)事業スタート

第2次広島県がん対策推進計画策定

6つの柱で日本一のがん対策



① 広島県がん対策推進計画の概要

広島県では、がんが県民の生命、健康、生活を脅かす重大な問題となつてゐることから、県政の基本方針となる「ひろしま未来チャレンジビジョン」に「がん対策日本」を掲げ、本県における重要課題とし

また、基本理念のモチベーション（①がんで死亡する患者の減少（以後5年間で%減少）、②すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上、③がんになつても自分らしく豊かに生きることのできる地域社会の実現）この3つの目標を達成（将来像）を掲げ、その実現に向けて取り組んでまいります。

この「がん対策日本二」の実現に向けた計画として、今後5年間を計画期間とする「第2次広島県がん対策推進計画」を、平成25年3月に策定しました。計画では、2つの基本理念を掲げ、県民のあらゆる場面に対応する「隙間のない総合的ながん対策」を推進するとともに、県民一人ひとりが主体的に積極的に行動する「県民総ぐるみのがん対策」の実現を目指しています。

がんは、昭和54年以降、30年以上連續して広島県の死亡原因の第1位という状況が続しております。今もなお、高齢化の進展等を背景に、がんによる死者数は増加しています。

このため、県では「広島県がん対策推進計画」に基づき、がん対策の6つの柱（予防、検診、医療・緩和ケア、情報提供・相談支援、がん登録）による総合的ながん対策に取り組んでいます。

今回からその取り組みについてシリーズで紹介していきます。

The diagram illustrates the 'Six Pillars of Japan's Best Cancer Control' (6つの柱で日本一のがん対策) as part of the Hiroshima Prefecture Cancer Control Promotion Plan (第2次). The pillars are represented by vertical bars of varying heights, each labeled with a specific aspect of cancer control:

- がん予防 (Cancer Prevention)
- がん検診 (Cancer Screening)
- がん医療 (Cancer Treatment)
- 緩和ケア (Palliative Care)
- 情報提供・相談支援 (Information Provision and Consultation Support)
- がん登録 (Cancer Registration)

県内のどこでも、あらゆる場面に対応する「隙間のない総合対策」



食中毒にご注意を

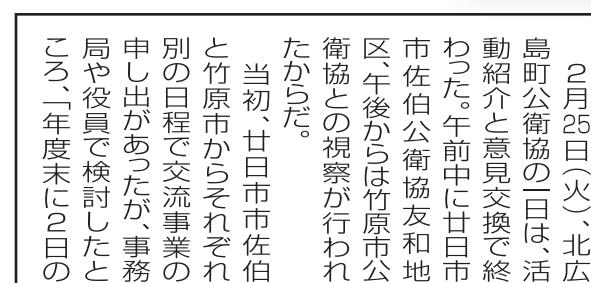
家庭でもできる食中毒予防



ごとににより防ぐことができるため、日常生活の中での私たちの意識が大切です。最近では、ヒトから食品を介してヒトへ感染するノロウイルスによる食中毒が頻発していることから、二次感染を防ぐという目的で、食品を扱う企業では従業員の健康管理も大切な防止活動となっています。

このように、食中毒の予防はそれぞれの原因に合った対策が重要です。食中毒をテーマとした本連載では、今後、食中毒の種類ごとに予防対策も含めた詳しい説明をしたいと思います。

(食品検査課 和田 貴臣)



公衛協
ア・ラ・モード

⑯北広島町公衛協
【地域交流】

視察受け入れは、正直しない
んどい（大変だ）。せつか
くだから、3公衛協同合
で交流事業ができない
か。」といふこととなり、
3公衛協の調整の結果

14名が北広島町役場に赴き、庁舎の太陽光発電設備を見学した後、北広島町で行っているウォーキング事業を中心とした意見交換を行った

午後は、竹原市公協から2名が訪問し、公衛協組織のあり方(推進委員の選出方法、任期事務局の関わりなど)や具体的な事業の展開を

北広島町では、午後ともに12名程役員および事務局応し、各事業の説明当者が分担して行い、事務局に頼らを

らず役員の変更もあるなか、関わった人ができるだけ自分の言葉で伝えられるよう、人材育成も兼ねた受け入れ手法として、他の公衛協でも

一日で2公衛協と交流



